

ワークショップ

テーマ「オピオイドの薬物動態を見直そう」

企画意図

ここ数年、新規オピオイド鎮痛薬の登場により鎮痛薬の選択肢が増えている。それぞれのオピオイドの効力比や副作用の発現頻度などを比較したデータ報告されている。しかし、肝機能低や腎機能低下による特殊病態下での各オピオイドの体内動態を正確に予測するための知識として、薬物動態学は不可欠である。この薬物動態学に対し、苦手意識を持つ大きな要因に、複雑な計算式登場や実際の動態イメージの難しさから、避けられてしまう傾向にある。

しかし、基本的な考え方を身に着けることで、オピオイドのみならず他の薬物の体内での動きをイメージすることが可能になり、特殊病態下においても、添付文書などにあまり詳細なデータがない中で、体内変動を予測できるようになる。そこで、実例をもとにオピオイドの動態変化について、改めて考えてみたい。

●2019年8月24日（土）12時50分～14時00分

札幌市立大学 桑園キャンパス 講義棟2階 講義室1（第1会場）

●ファシリテーター

- ・薬物動態導入説明 高田 慎也（北海道がんセンター薬剤部）
- ・症例1
和泉 早智子 氏（医療法人 東札幌病院 薬剤課）
高橋 健太 氏（NTT 東日本 札幌病院 薬剤科）
- ・症例2
鈴木 拓也 氏（KKR 札幌医療センター 薬剤科）
深井 雄太 氏（国立病院機構 北海道がんセンター薬剤部）
- ・総合ファシリテーター
寺田 和文 氏（市立旭川病院 薬剤科）

●時間の内訳：70分

- 20分：導入説明と症例の提示
- 20分：症例1を検討
- 20分：症例2を検討
- 10分：総合討論、質疑応答